

タイを知ろう。そして、世界を知ろう。

兵庫県淡路市立富島小学校

今谷 正

- ・実践教科 総合的な学習の時間 道徳 家庭科
- ・時間数 34時間
- ・対象学年 6年生、5年生、1年生
- ・対象人数 6年生16名、5年生11名、1年生16名

1. 実践の目的

クラスにタイ人の女兒1名が在籍している（以下、T児と呼ぶ）。「この子の母国タイを知りたい。」「タイで国際理解教育の材料を探そう。」こんな目的から、今回、JICA 海外研修に参加することにした。淡路島で暮らす子ども達は、都会と違って外国人と接する機会が少ない。また、知っている国名も少なく、予想以上に外国のことを知らない実態がある。そこで、身近にタイ人の仲間がいるということを積極的に受け止め、タイを知ることから、世界へと学習の輪を広げていきたいと考えた。まず手始めに、私がタイで見聞してきたことをクラスの子ども達に紹介することから、国際理解教育のスタートをきった。

指導にあたって、知る学習だけでなく、体験的な学習も積極的に織り込みたいと考えた。文化や習慣などの違いを体で感じ、そして、それを認め合える子どもに育ててほしいと願っている。さらに、日本の国際協力についても学習することで、世界の中の日本という視点で世界に目を向けられるような子どもに育ててほしいと願っている。

2. 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限 タイを知ろう	<ul style="list-style-type: none">・ 教師海外研修で取材した写真やビデオを見る。（総合的な学習1，5時間）・ 感想を交換する。（総合的な学習0，5時間）	<ul style="list-style-type: none">・ 授業者が教師海外研修で取材した写真やビデオを編集したもの
3時限 世界の中の日本	<ul style="list-style-type: none">・ 知っている国名を書く。・ 日本の食料自給率、エネルギー自給率などをクイズ形式で考える。（総合的な学習）	<ul style="list-style-type: none">・ ワークシート・ スライド（自作）・ 今がわかる時代がわかる2003年版、2005年版世界地図
4時限 日本の国際協力	<ul style="list-style-type: none">・ 国際協力の大切さを知る。	<ul style="list-style-type: none">・ スライド（自作）・ JICA兵庫のパンフレット

	<ul style="list-style-type: none"> ODA の資金援助、JICA の人的援助、NGO の民間援助などについて知る。(総合的な学習) 	兵庫から世界へ
5 時限 JICA 兵庫を訪問する	<ul style="list-style-type: none"> JICA 兵庫の施設見学 JICA の国際協力について話を聞く。(総合的な学習) 	
6 ～ 11 時限 タイ料理に挑戦しよう	<ul style="list-style-type: none"> アジアの料理について調べる。(家庭科 1 時間) 香辛料について知る。(家庭科 1 時間) グループ分け、持ち物、準備物の確認。(家庭科 1 時間) T 児のお母さんを招いてタイ料理をいっしょに作り食べる。後片づけの後、感想を書く。(家庭科 3 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ 各種、香辛料 ワークシート タイの香辛料や食材などは主に T 児のお母さんに用意していただいた。
12 時限 民族服クイズ	<ul style="list-style-type: none"> 世界各国の民族服を見て、国名を考える。 その国の場所、人口、言語などその国の概要を知る。(道徳 1 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> スライド (自作) 世界白地図
13 ～ 20 時限 外国の方を招いて交流会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 交流会の計画を立てる。(総合的な学習 1 時間) 出し物の練習をする。(総合的な学習 2 時間) 外国の方の国について調べる。(総合的な学習 2 時間) 交流会をする。(総合的な学習 2 時間) 感想を書く。(総合的な学習 1 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ ワークシート CD (南中ソーラン) 楽譜 (「涙そうそう」「恋のマイアヒ」)
21 ～ 34 時限 学習発表会で世界の音楽を	<ul style="list-style-type: none"> 民族楽器にふれてみよう。(総合的な学習 1 時 	<ul style="list-style-type: none"> サンポーニャ、ケーナ、カリンバリ、ディジュリ

奏でよう	<p>間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の分担を決める。(総合的な学習 2 時間) ・ タイの民族音楽、ブラジルのサンバ、日本の「越天楽今様」、タンザニアの民族音楽、ペルーの「コンドルは飛んでいく」を練習する。(総合的な学習 1 1 時間) 	<p>ドゥ、サンバホイッスル、アゴゴベルなど、知人から借りた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイの曲は海外研修で録音した曲を自作アレンジした。 ・ タンザニアの曲は「ソテ・トゥリフラヒア」という原曲を自作アレンジした。 ・ ブラジルの曲は、子ども達がアレンジした。 ・ 「越天楽今様」「コンドルは飛んでいく」は 6 年音楽教科書(教育芸術社)掲載の楽譜を使用した。
------	---	---

3. 授業の詳細

1～2 時間

タイを知ろう

学習の第一歩はタイを知ることから始めた。

JICA 教師海外研修でタイに行ったとき、取材した写真やビデオを編集したものを子ども達に見せて、その感想を出し合い交流した。子ども達にタイの学校・都市・農村・寺院の様子などを見せた。みんな、笑ったり、びっくりしたり、楽しく見ていた。

子ども達の感想

- ・ バンコクには日本の会社の広告やコンビニがたくさんあるのにおどろいた。
- ・ バンコクは大都市で、日本と同じ交通渋滞がある。
- ・ タイの発展のために日本人が協力していることを知った。
- ・ Tちゃんが教えてくれたとおり、タイの学校には屋台があった。休み時間に買って食べているので、日本の学校にも屋台があればいいのに。
- ・ Tちゃんが言うとおり、タイの女の子はみんなダンスが好きだった。
- ・ 子どもは、みんな目がキラキラしている。はだしで遊んで元気そうだった。
- ・ タイの農村の生活は、日本とかなり違っていた。
- ・ タイの寺院はきれい。見に行きたくなった。

3 時間

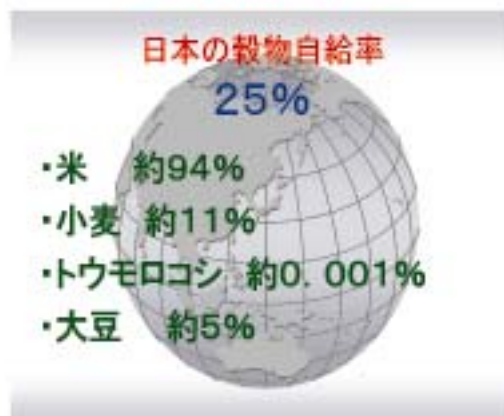
世界の中の日本

自作スライドで日本の食料自給率やエネルギー自給率などをクイズ形式で考えさせた。子ども達は、日本の食料自給率、エネルギー自給率の低さにおどろいていた。そして、日

本の経済や産業が原料の輸入によって成り立っていることを知った。さらに私達一人一人の生活も諸外国と無関係でないことに気付いた。

子ども達の感想

- ・日本では、小麦もトウモロコシも大豆もほとんど自給できないことを知った。
- ・お寿司のネタのエビやマグロやタコも輸入していることを初めて知った。
- ・世界の国々でたくさんの日本人が暮らしていることを知った。
- ・世界には63億人の人々が暮らしていて、その80%が発展途上国で暮らしていることを知った。
- ・先進国上位10カ国で、世界の富の4分の3をとっているのだから、発展途上国はたいへんだと思った。



授業で使ったスライドの一部

4 時限

日本の国際協力

「国際協力がなぜ必要なのか。」「日本の国際協力はどのように行われているのか。」についてスライドを使って説明した。ODAは資金協力を、JICAは主に人的・技術面の支援をしていることを知らせた。以前、ビデオやスライドで見たバンコク新国際空港建設や青年海外協力隊の活動などがそれにあたることを知らせた。また、民間のNGOも積極的に発展途上国への支援を行っていることも知らせた。子ども達には、難しい内容だったが、次のJICA訪問につながる学習になった。

5 時限

JICA 兵庫を訪問する

開発教育担当者からJICAが行っている国際協力について、クイズ形式で楽しく説明していただいた。アンケートの結果からも分かるように、子ども達にはよく理解できたようだ。また、展示物にも興味関心を示す子どもが多かった。



JICA兵庫の展示室で

事後アンケート結果

5年生11名、6年生16名、合計27名

1. JICAが行っている国際協力について理解できましたか。
- ・よく理解できた。 12名
 - ・だいたい理解できた。 14名
 - ・少しだけ理解できた。 1名
 - ・理解できなかった。 0名

2. JICA兵庫の施設を見学してどう思いましたか。(いくつ〇を入れても良い)

- ・施設がきれいだった。 20名
- ・いろいろな施設があるのでおどろいた。 15名
- ・もっといろいろな所を見たかった。 9名
- ・一階の展示物がよかった。 12名
- ・外国の人と交流したかった。 11名
- ・食堂のメニューがよく考えられていると思った。 13名

3. その他、JICA兵庫を見学して「思ったこと」「感じたこと」「考えたこと」を書いてください。

- ・JICAはいろんな国際協力をしていたのでびっくりした。
- ・JICAはとても工夫していると思った。
- ・JICAはいろいろな国に人を派遣しているのがすごい。
- ・展示物が分かりやすく置いてあった。
- ・外国の人に会いたかった。
- ・自分に出来るボランティアをしていきたい。
- ・私も何か協力したい。
- ・クイズが楽しかった。
- ・まだまだ、本当に貧しい国があるんだと思った。
- ・クイズでいろいろなことが分かった。
- ・JICAは、貧しい人を助けてすごいと思った。
- ・外国の研修生がどんなことをしているのか見たかった。
- ・JICAがどんな場所かよく分かった。

4. 今後、国際理解の学習で、どんなことをしたいですか。書いてください。

- ・大人になったらJICAに行きたい。
- ・もっと国際協力について学習したい。
- ・外国のことをもっと知りたい。
- ・外国の人と交流したかった。(多数)
- ・日本も他の国に助けられたから、別の国も助けてやりたい。
- ・発展途上国のことをもっと勉強したい。
- ・JICAのことをもっと知りたい。
- ・自分たちにできることを考えてみたい。
- ・人々がみんな平等に生きられたらいいなと思った。
- ・世界の遊び道具で遊びたい。

6～11時限

タイ料理に挑戦しよう

アジアの料理についてインターネットで調べ学習したり、世界の香辛料について栄養士の先生に授業していただいたりしながら、タイ料理に関心を向けさせていった。

T児の母親は、「子ども達はタイ料理を食べてくれるだろうか。『からい』とか言って食べないんじゃないか。」など心配していたが、作り始めると、みんなつまみ食いするくらいおいしいと言っていた。T児も母親も、そんなみんなの様子を見てよろこんでいた。これを契機にT児がいっそう明るく元気になったように思えた。



T児のお母さんとタイ料理作り

子ども達の感想

- ・私が一番おいしいと思ったのはタイ風焼き鳥です。Tちゃんのお母さんは、タイ料理を作るのが上手でした。もう、タイ料理は食べられないかもしれないけど、また、ちがう国の料理を作りたいです。
- ・ぼくは初めてタイ料理を作って食べました。トムヤンクンが一番おいしかったです。味見をすると、ショウガみたいな味がして、かむたびに辛くなるのにはまってしまいました。
- ・日本では使わないような調味料や食材を初めて見ました。あまり口に合わなかったけど貴重な体験ができて良かったです。

12時限

民族服クイズ

「子ども多文化交流&JICA国際協力フェスティバル2005」に参加した際、会場に展示してあった民族衣装をデジタルカメラで撮ったものをスライドに編集した。

「この民族衣装は、どこの国のものですか。」

「その国を世界地図で探しましょう。」

「その国の人口はどれくらいかな。」などクイズ形式

で12カ国分、出題した。T児はさすがにタイの民族服がすぐに分かった。



民族服クイズ スライドの一部

13～20時限

外国の方を招いて交流会をしよう

JICA 研修生、7カ国7名（アフガニスタン、ヨルダン、バブアニューギニア、サモア、タンザニア、東ティモール、パキスタン）の外国の方々を招いて交流会を行った。この計画は、先にJICA兵庫を訪問した際、「外国の方と交流したかった。」という子ども達の声を受けて企画した。当日は、次のような内容で交流した。

① 校内見学

- ② はじめのあいさつ（児童）
- ③ 自己紹介（児童、研修生）
- ④ 南中ソーラン、合奏「恋のマイアヒ」、歌「涙そうそう」の披露
- ⑤ 研修生の出し物
- ⑥ 児童からの質問
- ⑦ 日本の遊びを楽しもう（こま、けん玉、お手玉、おりがみ）
- ⑧ ゲームを楽しもう（ジャンケン列車、手つなぎおに、おんぶリレーなど）
- ⑨ おわりのあいさつ（児童、研修生）

事後アンケート結果

1. 交流会の感想で自分の気持ちに当てはまる項目に○を入れましょう。

- ・大変楽しかった 8名
- ・楽しかった 17名
- ・楽しくなかった 0名

- ・機会があればまたしたい 8名
- ・どちらともいえない 17名
- ・もうしたくない 0名

2. 交流会の中でよかったこと、楽しかったことは何ですか。

- ・自分達の出しもの 0名
- ・交流生の出しもの 10名
- ・日本の遊び 15名



研修生と日本の遊びを楽しんでいる。

3. 交流会で感じたことなど、感想を書きましょう。

- ・研修生のMさんがお手玉もこまも大変上手だった。（多数）
- ・ファイアーダンスすごかった。おもしろかった。（多数）
- ・おりがみを教えることができうれしかった。
- ・研修生の方は、歌が上手だった。
- ・もっといっしょに遊びたかった。（多数）
- ・英語でしゃべってきたのでビックリした。（多数）
- ・英語が上手だった。
- ・研修生の方の出しものが上手だった。
- ・外国の方は結構やさしかった。
- ・ちがう国の人とも交流したい。
- ・こまはパキスタンの人が上手だった。
- ・けん玉はみんなあまり上手でなかった。
- ・外国の人は、みんなおもしろいし、楽しい人だ。
- ・少しでも日本のことが分かってもらえてよかった。

- ・英語ができなくても、楽しくできるんだと思いました。

アンケートの結果、交流会に対して肯定的な意見が多く、また「少しでも日本のことが分かってもらえてよかった。」「英語ができなくても、楽しくできるんだと思いました。」などの意見が出ていたので、交流会は成功だったように思う。しかし、質問の時間がとれなかったり、遊びの時間が短かったりしたので、もっとゆとりのある計画を立てるべきだったと反省している。

21～34 時限

世界を奏でよう

3学期の学習発表会の内容は、今まで学習してきた国際理解教育の流れでいきたいと考えていた。そこで思いついたのが世界の民族音楽を体験させることだった。かつて、世界の民族楽器を使って合奏に取り組んだことのある知人の教師に、民族楽器を貸していただいたり、民族音楽のCDを聞いたりしながら構想をねった。当初、借りた民族楽器を使う予定だったが、奏法が予想以上にむずかしく、また、楽器の数も少なかったので、音楽の時間に使っているような見慣れた楽器で演奏することにした。そのため、原曲を演奏しやすいようにアレンジした。

練習を始めたころは、リズムが合わず、みんなの心がバラバラだった。民族音楽は単調なリズムやメロディーの繰り返しぐらいに思っていたが、練習を始めると意外にリズムのとり方が難しかった。

民族音楽には、その国の風土や国民性が色濃く反映している。練習が深まるにつれて、このような特徴にも気づき、リズムも合い始めた。子ども達の心に世界の音楽が響き始めたようだった。

また、タイの曲では、曲に合わせて女の子達がダンスを踊った。そのダンスは、T児が中心になって、みんなで振り付けを考えた。



学習発表会で演奏

学習発表会シナリオ

平成十七年度富島小学校学習発表会 六年生

世界を奏でよう

『タイの曲』

男 「サワディーカップ」

女 「サワディーカア」

- 1 タイ語で「おはよう。こんにちは。こんばんは。」というあいさつの言葉です。
- 2 今、聞いていただいた曲はタイの民族音楽ですが、私達で少しアレンジしました。ダンスもタイのダンスをまねして、私達で振り付けを考えました。
- 3 私達は、二学期から「タイを知ろう。そして、世界を知ろう。」をテーマに、いろいろ

な学習をしてきました。

- 4 タイ料理も作りました。日本の国際協力について学習した後、国際協力機構 J I C A を見学しました。
- 5 そして、一月二十日には、アフガニスタンやパキスタンなど七カ国、七名の外国の方を招いて交流会もしました。
- 6 世界の中の日本について学習する中で、分かったことは、今の日本の豊かさは世界の国々との協力によって成り立っていること。
- 7 そして、今後の発展も世界の国々と仲良くしていくことで達成されることを知りました。
- 8 このような学習の流れで、今度は世界の音楽にも挑戦することにしました。
- 9 今から世界の音楽を奏でることにします。どうぞお聞きください。
- 10 次の曲はブラジルのサンバです。この曲も私達でアレンジしました。どうぞお聞きください。
- 11 次は私達の国、日本の曲です。曲名は『越天楽今様』です。
- 12 この曲はアフリカのタンザニアの曲で『ソテ・トゥリフラヒア』と言います。アフリカらしい雰囲気がよく出ています。
- 13 最後は南米ペルーやボリビアの民族音楽で『コンドルは飛んでいく』です。有名な曲なのでご存じの方も多いと思います。お聞きください。
- 14 どうでしたか。これからも、時間があれば、もっといろいろな世界の音楽に挑戦したいと思っています。
- 15 そして、もっと世界のことを学習して、世界の人々と仲良くできるような人になりたいと思います。

全 「グラシアス」

- 16 「グラシアス」はスペイン語で「ありがとう。」という意味です。これで六年生の発表を終わります。

子ども達の感想

- ・タイの曲のとき、お客さんはみんなおどりの方に目がいていました。
- ・タンザニアの曲で、リズムよくいったのでよかったです。
- ・保護者の方に、とてもいい曲を聞かせることができよかったです。
- ・「コンドルは飛んでいく」の最後が、きちっとそろったので、今までより気持ちよかったです。
- ・「世界を奏でよう」では、すごく緊張しました。タイのダンスはちょっとはずかしかったです。
- ・時間があったら、また世界の国の音楽を演奏したいです。世界にはいろいろな曲があって、とてもおもしろかったです。
- ・タイの曲、日本の曲、タンザニアの曲など、いろいろな国の曲を演奏した。初めていろいろな曲を聞いたときは、「かわってるなあ。」と思った。

4. 成果と課題

34時間にもおよぶ学習のスタートは、「タイを知る」学習からだった。ここから広がって、最後を「世界を奏でよう」で締めくくった。当初、ここまでやれるとは思わなかったが、やり始めると、私の中にエネルギーが湧いてきた。その源は、やはり、教師海外研修に参加したことと、クラスにT児がいることだ。T児がいることを積極的に受け止め、学習の中に活かしていこうと考えた。「タイ料理に挑戦」「外国の方との交流」「世界を奏でよう」のタイのダンスなどがそれにあたる。T児は学習を続けるに従って、だんだん元気になっていくのが分かった。みんなと明るく笑顔で過ごすことが多くなり、他の子ども達もT児がいることで、自然に学習に入っていくことができた。

国際理解教育は、コンピュータを使った調べ学習など、知識中心の学習だけでは子ども達の心に響きにくい。五感を使う体験的な学習が有効だった。当初、子ども達の気持ちの中には、外国の料理、外国の方、外国の音楽等々、これらに対する違和感があった。しかし、実際にふれ合っていくうちに、このような違和感も徐々に消えていくのが分かった。今回の学習を締めくくるにあたって、やはり、教室や学校だけでなく、地域の人材やJICAなど関連機関を積極的に活用することが有効だと感じた。

課題としては、今回の一連の学習が学校全体を見据えた系統的な学習になっていないことである。学習によって、5年生や1年生が参加したが、おおむね6年生の単学級の取り組みだったということだ。34時間にもおよぶ学習ができたのは単学級だったからだ。しかし、今思えば、全校生79名の小規模校なので、「外国の方との交流」などは学校行事として全校的に実施できたし、「タイを知ろう」のスライドやビデオ、「民族服クイズ」などは短時間に編集し直せば、朝の児童集会でも実施できた。今回の経験を活かして、今後は、学校全体で取り組む国際理解教育という視点で考えていきたいと思っている。

5. 授業で使った資料・教材の入手先

- ・ 今が分かる時代が分かる 2003年版 世界地図 成美堂出版
- ・ 今が分かる時代が分かる 2005年版 世界地図 成美堂出版
- ・ CD ワールド・ミュージック ベスト victor
- ・ JICA兵庫パンフレット 兵庫から世界へ

アジア文化を体験しよう

～地元に住むアジアの方を招いて～

岡坂隆志 OKASAKA TAKASHI
宝塚市立長尾中学校（兵庫県）

●実践教科	総合的な学習の時間	英語	国語
●時間数	7時間		
●対象学年	2年生		
●対象人数	165人		

カリキュラム案

【実践の目的】

宝塚は国際文化観光都市であり、海外からの観光客も多い地域である。また歴史的にも外国人市民との関わりが深く、現在44か国、約3,500人の外国人市民と共に生活している。私は今回のタイへの海外研修を通じて、異文化理解への一番の方法は、やはり「体験」であると実感した。写真やテレビなどの画面でみる異文化よりも、生で見て、触れ、会話するほうが、「異」を実感し、理解しやすい。地元にある異文化を体験し、国際交流・異文化理解に役立てたいと考え、以下のような授業を構成した。

教師海外研修ではタイに行くことで様々な体験をし、たくさんの人たちと触れあう中で、多くのことを学んだ。本来ならタイの人たちを呼んでタイ文化を紹介しながら国際交流すべきだったのだが、宝塚にタイの人たちがいなかったこと、また、異文化理解・国際交流のためには身近な方に接する方がより良いと判断し、インドネシアの方を招待するに至った。

【授業の構成】(全7時間)

第一時 身の回りにある異文化を知ろう。(総合)

- テーマ 自分たちの町にある異文化について知ってもらう。
- 方法・内容 ・宝塚市広報誌「風だより」を使用。ここに載っている宝塚のお店より、自分たちの町にある異文化に興味をもってもらう。
・実際、行ったことのある生徒に感想を聞き、意見を交換する。
- 使用教材 宝塚市広報誌「風だより」 市民レポート54

第二時 アジアについて調べよう(英語)

- テーマ アジアの国の衣食住、言語について調べる。

方法・内容 ・それぞれ興味ある国の衣食住、言語について調べる。
・調べたものを、レポート用紙にまとめる。

使用教材 ・インターネット
・図書室の本
・レポート用紙

第三時 日本について調べよう（総合）

テーマ 自分たちの国を紹介する方法を考える。

方法・内容 班になり、国際交流会時に紹介できそうな日本文化を考える。また
実際紹介できそうな文化を練習する。

使用教材 ・剣玉、コマ回しなど
・プリント（別紙1）

第四時 インドネシアについて調べよう（総合）

テーマ 国際交流会でインドネシアのジョニーさんを招待することが決まっ
た。ジョニーさんの国、インドネシアについて知る。

方法・内容 クイズ形式のプリントを配布し、班で調べさせる。

使用教材 ・プリント（別紙2）
・社会科地図帳

第五時・第六時 国際交流会（総合）

テーマ 交流を通じて異文化に興味を持たせ、同時に日本文化について考え
させることで、国際理解へのきっかけをつくる。

方法・内容 体育館にてジョニーさん夫妻を招待し、国際交流会を開く。司会進
行を生徒会にさせる。

使用教材 ・タイ壁新聞
・インドネシアレポート
・香辛料
・民族衣装
・民族楽器
・セバタクロー
・和太鼓

第七時 国際交流会を振り返って（国語）

テーマ 交流を通じて感じたことを書く。また、ジョニーさんたちに感謝の
手紙を書く。

方法・内容 班になり、出来事を思い出しながら書いていく。
使用教材 ・プリント

【授業の詳細】(生徒たちの反応)

第一時～第四時

「外国の文化なんかわからんし～！」と言っていた生徒たち。「だったら、日本の文化は分かるんだな？」と確認すると、誰もが黙り込んでしまいました。他国を学ぶことで、改めて、自分たちの国について考えることができたようです。

第五時・第六時

(以下、学年通信より抜粋)

国際交流会をしました

先日6日に「国際交流会～インドネシアと日本の架け橋～」をしました。そして日本の文化紹介では和太鼓、コマ回し、剣玉、柔道を披露し、インドネシアの文化紹介では民族衣装、スパイス、楽器、インドネシア舞踊の紹介をして頂きました。生徒会執行部の司会進行で進められ、たくさんの方の協力のもと、みなさんの感想文に書かれてあるように大変充実した一時となりました。



今回の交流会では本当によい経験になったと思います。生徒会初仕事でもあったし、みんなの前で英語のスピーチもさせてもらったし・・・日本の文化ではコマや剣玉は私にはできなくて本当にすごいと思った。自分の国の文化でも驚いたり感激した。それに柔道部が見せてくれた技、すごくかっこよかったし、オープニングセレモニーの和太鼓は心に響くほどすごかった。インドネシアの文化では楽器を見せてもらい、音は同じだけどレとシがないということにはびっくりした。それでも音楽は全国共通なん

だなあと思った。あとテンペは最初おいしいのかなとか少し不安で食べてみたらすごくおいしくて他の料理も食べてみたいなと思いました。ジョニーさんの踊り、すごくよかった。あんなに大勢の前で堂々とした踊り、また見てみたいです。(1組 女子)

私は民族衣装を着るといってもめずらしい体験や日本文化の剣玉をやったりと楽しかったです。でも剣玉が決まらなかったのが悔しかったです。民族衣装は恥ずかしすぎました。ますみさんの服が着たかったです。でも本当に貴重な事だと思いました。テンペを食べて良いと言われたので食べました。マズイと言う人とおいしいと言う人と意見が分かれていました。私は唐揚げっぽくておいしかったです。ジョニーさんのダンスは迫力がありませんでした。その他に古本さんの太鼓や柔道やコマなどもかっこよかったです。楽器も綺麗な音で、しかもドレミファソじゃなくてびっくりしました。こんな感じで良い勉強になりました。いつかジョニーさんの店に行きたいです。(1組 女子)



12月6日に国際交流をした。最初はただ「インドネシア人がくるんや」と思っていたのにパソコンでいろいろ調べるうちに早く交流会をしたいという気持ちになった。6日当日僕はわくわくした。対話が出来た。ジョニーさんが来た。僕はあまり意味も分からず手を合わせてみた。そしたらジョニーさんも微笑みながら返してくれた。日本の紹介の後、インドネシアについて教えてもらった。スパイス体験があって口の中がピリピリしていた。そして時間があっという間に過ぎて最後のジョニーさんがパリスという踊りを見せてくれた。ものすごく迫力が怖かった。この交流の機会を作ってくれた先生方、本当にありがとう。(1組 男子)



今回の国際交流は他の国の文化や言葉、衣装、楽器や踊りなどをたくさん教えてもらいました。日本とは全然違う文化でインドネシアの文化もとてもおもしろい文化だと思いました。ジョニーさんは4カ国語も話せてすごいと思ったし努力家だと思いました。今回の国際交流会はとてもいい経験ができたし、たくさん外国の事を学びました。またこんな機会があったらいいと思いました。(2組 男子)

オープニングから古本さんの力強い太鼓で始まってすごくびっくりしました。たいこをたたくのがすごく上手でした。オープニングからすごくドキドキして次はどんなことをするのかとワクワクしました。今回の交流で日本の文化はこんなものだったんだ、と気付かされました。今思えば私はコマも剣玉も太鼓のたたき方もよくわかりません。本当に日本の文化をわかっているのかなと思いました。インドネシアの文化は日本と全然違ってとてもおもしろかったです。楽器も全然見た事のない形で音も違って驚く事がいっぱいありました。スパイスは固形のものから自分でできるっていうのがすごく大変そうで自分だったらできないなと思いました。でも一番凄かったのは踊りでした。不思議な動きでとてもおもしろかったです。今回このように勉強をして、もっと世界の文化を知りたいと思いました。(2組 女子)



国際交流はすごい楽しかった。今までインドネシアのことなんて全く興味がなかったけれどジョニーさんとますみさんがいろいろ紹介してくれてインドネシアって楽しい所なんだなあとと思った。私の中で日本と外国って差別してた。でもこの交流がきっかけでその気持ちはなくなった。他の文化にも文化があってお互いにいろいろ知って差別とかなくして仲良くする事が大切だと思ったから。あらためて日本の文化って結構いいもんやなとも思った。国際交流は大切だと思えていい機会になったと思う。(2組 女子)

国際交流会はとてもいい経験だった。特に印象に残ったことはジョニーさんの踊りである。足をしなやかに曲げ、動きを激しくする場面は地面からその震動が伝わった。それと気になったのは頭の飾りが動いたびに揺れたことである。あの飾りはどうできているのか調べてみたい。他に日本文化の紹介があった。



ほくはそこでコマ回しをした。大技もできた。そして剣玉の畑中君がうまかった。こうしてインドネシアに日本の文化を伝える事ができた。しかし僕たち日本人が母国の文化を忘れかけているのに気付いて少し悲しかった。

(3組 男子)



びっくりした。英語の授業の時間にいきなり柳田先生が国際交流すると言ってきた。さすが先生は私たちを驚かすのが上手だ。交流は大成功だった。生徒会執行部のみんなもばっちり司会ができていた。始めの言葉と終わりの言葉の英語のスピーチはすごかった。こまも剣玉もしっかりとできていた。岡坂先生のタイについての発表も、ばっちりだった。インドネシアと言えば先日起きたスマトラ沖大地震が印象的だ。すごい地震と聞いていたが「かわいそう」というぐらいの気持ちしかなかった。でもジョニーさんやますみさんを見てもがっかりした表情などはなかった。二人は地震で失った建物などを元に戻すために、そしてインドネシアの伝統を伝えるために日々努力しているのだなあとと思った。強くたくましくて優しい人たちだなあ。外国はそれぞれ言葉も違うし風習も歴史も違うから互いの文化を認め合い、知り、学ぶ事で自分の文化も尊重し、もっと交流を深めていきたい。

スピーチはすごかった。こまも剣玉もしっかりとできていた。岡坂先生のタイについての発表も、ばっちりだった。インドネシアと言えば先日起きたスマトラ沖大地震が印象的だ。すごい地震と聞いていたが「かわいそう」というぐらいの気持ちしかなかった。でもジョニーさんやますみさんを見てもがっかりした表情などはなかった。二人は地震で失った建物などを元に戻すために、そしてインドネシアの伝統を伝えるために日々努力しているのだなあとと思った。強くたくましくて優しい人たちだなあ。外国はそれぞれ言葉も違うし風習も歴史も違うから互いの文化を認め合い、知り、学ぶ事で自分の文化も尊重し、もっと交流を深めていきたい。

(3組 女子)



インドネシアとの交流で宝塚に住んでいるジョニーさんが来てくれました。ジョニーさんとますみさんはインドネシア文化についてとても丁寧に説明してくれてとてもわかりやすかったです。中でも民族衣装の説明がわかりやすくて感心しました。楽器の演奏もとても楽しそうでした。日本文化の紹介としてコマ回しと剣玉、柔道を発表しました。一番にコマ回しの出番があり、少し緊張しましたがうまくいってよかったです。あとテンペの試食もありました。代表の人が食べて、余ったのを食べました。とても不思議な感じの味でした。そして一番すごい

なあと思ったのはジョニーさんたちがスマトラ沖大地震の義援金を集めているということです。僕もそういう苦しんでいる、困っている人を助けることが出来たらいいと思います。世界に貧困に苦しんでいる人がいるのでもっと物を大切に「MOTTA I N A I」をなくしていききたいと思います。(3組 男子)

今回の国際交流は、インドネシアで、最初はインドネシアのことを全然知らなくてどんな国なんだろうなあと思っていました。でも事前にインドネシアのことを調べたりして、少しわかってきました。国際交流でインドネシアの文化についていろいろ教えてもらった中で一番印象に残ったのは楽器と踊りでした。楽器はたたくものだったので簡単そうだなと思ったけど、やってみると変な音がなったりしてすごく難しかったです。踊りの方は予想と全く違ってこまかい動きだったからびっくりしたけどすごいなあと思いました。他にも民族衣装やスパイスなどもあっておもしろかったです。インドネシアの文化だけじゃなくて和太鼓やコマ、剣玉をやっているところを久しぶりにみて楽しかったし、改めて日本のとてもいい文化がわかってよかったです。勉強になりました。国際交流も大切だなあとおもいました。また機会があれば他の国との国際交流をしたいと思いました。(4組 女子)

インドネシアという国を知る機会は今までなかったし、楽しみだった。インドネシアのことと言えば地震で大きな被害を受けたことぐらいしか正直知らなかった。実際に総合の時間に調べてみたら、国は結構大きいし、人口も多いし、知らないことだらけだった。そして国際交流当日、先に日本の文化を実践していた。こまや剣玉などなつかしい遊びもあったし柔道部の柔道も見れた。日本の文化について考えたことはなかったけどよく考えればいい文化だなと思った。その後、インドネシアの文化を紹介してもらった。楽器や民族衣装などを見せてもらった。多分この機会がなければインドネシアの楽器や民族衣装のことは一生知らなかったんじゃないかと思う。こういう国際交流がもっと増えたらいいなと思った。それに他の国の人にも日本の文化を知ってもらいたいと思った。(4組 男子)



今回の国際交流の中でも特にジョニーさんの踊りが感動しました。8分間踊り続けて大変なのに顔に疲れを感じさせる表情を出さずに踊っていたところがすごいと思いました。他には香辛料などが展示されていて、においをかぐと気分が悪くなってしまいそうな物があれば、とても良いにおいのする香辛料もあり、「こんなに香辛料の種類があるんだなあ」と思わず感心



してしまい、香辛料を見たりしているだけでも結構おもしろかったです。さらに日本文化としてコマや剣玉、柔道なども見れてとてもよい勉強になる一日でした。コマや剣玉、柔道をしてくれた人やジョニーさん、ますみさん本当にありがとうございました。たぶん一生残る思い出だと思います。(4組 男子)

勉強する前はインドネシアなんて全く興味はありませんでした。しかし勉強していると少しずつ興味が出てきました。知らないことがたくさんあるのでもっと知りたいと思いました。インドネシアは1つの島でできていると思ったらたくさんの島のあつまりで少し驚きました。民族衣装は思っていたより普通でした。食べ物は僕は食べていませんが、あまりおいしそうではありませんでした。踊りはとても不思議な踊りでした。すごく印象に残っています。踊りの時の衣装はとても派手でした。またこういう機会を設けてくれたらうれしいです。とても楽しい国際交流でした。(5組 男子)

今回の国際交流をして思ったことは、文化が全く違うということです。最初に見せてもらった楽器は鉄琴、木琴と似ているけど、実際は全く違う物でした。鉄琴のようなものは、たたいた後に手で音を止めて演奏するもので、木琴のようなものは木琴と違い音が小さかった。けど音色は木琴よりもきれいだった。一番印象に残ったのは踊りです。衣装がすごくきれいで、頭にかぶっていた羽のような物は絶え間なく動いていたのが不思議だった。踊りは独特な手の動きと目がすごかった。(5組 男子)



ジョニーさんとますみさんは、一番はじめから「優しそうだな」と思っていました。そして開会式！古本さんの太鼓で始まった。そして北園さんの英語が上手だった。日本の文化はコマや剣玉、柔道をした。どれも必死でがんばっていたため、十分に文化を伝えられたと思う。何よりもジョニーさんが笑顔で剣玉をしていた時がよかったな～、と思いました。その



後インドネシアの文化を教えてもらいました。服は動きにくそうでした。びっくりしたのは男の人、女の人のつけているスカートみたいな布が2m位ある！ということでした。そして楽器は木琴みたいな竹でできたものが木琴よりちょっと鈍い音がしました。なかなか難しそうでした。閉会式！高井さんの English すごうまかったです。とても充実した1日になりました。(5組 女子)

【成果と課題】

教科柄、タイについての文化を教えることはあまりできなかった。しかし、インドネシアの文化を教えたことで、感想に書いてあるように、生徒たちにとっては「他国の文化」だけではなく、「自国の文化」を見つめ直すよいきっかけになったと思う。他者を受け入れることで、自分との違いに気づく。違いが分かれば、自分の個性がわかる。異文化理解の目的である「他者理解と自己認識」を果たすことができたと思う。

不透明さが増している難しい時代状況である。生徒たちは「今すべきこと」に悩み「自分探し」に苦しんでいるように思う。異文化に触れたことで、より世界や、社会（日本）に興味を持ち、「他者を愛する心」「自分を愛する心」を育ててもらいたい。

【授業で使った資料・教材の入手先】

- ・宝塚市広報誌「風だより」 市民レポート54
- ・別紙1…国際理解を深める第1歩（インドネシアの巻）
- ・別紙2…国際理解を深める第2歩（インドネシアの巻）



市民レポート 54

国際交流協会の活動

NPO法人宝塚市国際交流協会（一般会員526人・法人会員17社・団体会員29団体）は、阪急宝塚南口駅前（サンビオラー番館3階）の国際・文化センターを活動拠点に海外姉妹都市との交流、国際理解の取り組みやNGO団体の活動支援、外国人市民の皆さんとの交



出合い広がる

国際交流の輪

これまで県下では神戸、姫路、宝塚市が国際観光モデル地区の指定を受け、国際観光都市としてまちづくりが進められてきました。市内には現在、44カ国約3400人の「外国人市民」が生活しています。宝塚市民のうち1・5%は「外国人市民」です。
今号では、スパイスを効かせて(?)ひと味違った「国際交流」について取材しました。

流などに取り組んでいます。

先日、私が参加した主催事業の「国際理解セミナー」は、日本人としてどう考え行動すれば良いかを学ぶ絶好の機会となりました。

ほかに、外国人の皆さんに市内の日本文化を紹介する「まちを歩く」や「日本料理講習会」、「留学生のための宝塚歌劇招待」、「外国人日本語スピーチ大会」、「国際協力活動支援バザー」などユニークな催しを開催、さらに、外国人市民の皆さんのサポート役として生活相談にも応じてい

ます。

▽問い合わせは国際交流協会（☎07997・76・5991）、水・日曜、祝日を除く10時～17時30分。

インドネシア料理 チャナンサリ

インドネシア出身のバリ人・シヨニーさんと奥さんの富田さんは中山寺一丁目、「チャナンサリ」というインドネシア料理とバリ島雑貨店を2002年にオープン。国際交流協会会員のお二人は民間大使として市内の小学校を



座右の銘の「白黒は永遠に存在する」。バリの人たちは、人間をはじめ物事には必ず白黒(善悪)が存在し、そのどちらか一つだけはない...



訪問、インドネシアの文化を紹介する活動に参加しています。
シヨニーさんに、国際交流について話していたきました。「バリの人たちは誰もが幼

いころから、伝統舞踊や音楽を母国の芸能として身に付けています。民族衣装を身にまとい、手を合わせて心を神様に向けることが当たり前の習慣として受け継がれています。日本にも伝統文化、芸能、

衣装、音楽があるのに、ほとんどの人は母国の伝統を外国人の皆さんに披露できません。外国人の皆さんに母国の伝統を見せてもらい、また逆に日本の伝統を見てもらうことが国際交流の第一歩。お互いに興味を持って知れば知るほど、親近感がわいて距離も近づいてきます」。

店を訪れた日のディナータイムは、バイキング形式でスパイスの香りいっぱいインドネシア料理が楽しめました。続いて、ジョニーさんが

豪華な衣装を身にまといパリのダンスを披露してくれました(写真＝前頁左下)。

シチリアの味

アモーレ・アペーラ

南ローマのイタリアンレストラン「アモーレ・アペーラ」は、現在のオーナーのエルコレ・アペーラさんの父・オラッチオさんが1946年にオープン、イタリア料理店の草分けとしてシチリアの味を守り続けています。

父・オラッチオさんは、第二次世界大戦中に東シナ海で爆撃を受け大やけどを負いました。その後イタリアは連

合国に降伏、捕虜となりやがて終戦を迎えました。武

「良い音楽・良い雰囲気・良い食事」



ラ」は、よくオープン

運命を経て「アモーレ・アペーラ」は、よくオープン

しました。

日本びいきのエルコレ・アペーラさんは、「父の故郷・シチリア島を訪ねたい」と思いますが私の故郷は日本、どこへ出掛けても空港駅に降り立つとほっとします。そのまま寿司屋に直行して、タコ、ウナギ、トロ、赤貝…。美味しいものがあるとどこへでも出掛けます。先日も往復5時間かけて福井県若狭に、へしこ(魚のぬか漬け)のスパゲティを食へに行きました」。

美味しい料理を提供するのは当たり前、いつもそれ以上のことを考える…。これが亡き父からのメッセージ。

ネパール料理

サバナエック

中筋7丁目交差点を渡った伊丹市荒牧3丁目に昨年オープンしたのがネパール料理店の「サバナエック」。ネパール国旗が軒先にはためき、店に入るとお香の香りと心がいやされる不思議な音楽が流れ異空間が広がります。居合わせたお客さんの一人は、「なんだがいつもと違う時間が流

れているよう、これをネパール時間というのかな…」と話してくれました。

オーナー・シエフのバタヤさんは、「9年前、コックの修行のため来日。日本に来る飛行機から生まれて初めて海を見て驚きました。店名のサバナは夢、エックは一番。「一番の夢、夢がスタート」のこと。店を持って夢が実現したのでそう名付けました」。

ネパールは中国とインドの中間に位置し、料理もその両方の良さを合わせ持つ味です。パンの一種のナンを本場のタンドールと呼ばれる釜で

焼く様子が見られます。

私たち日本人は、表情や身振り手振りで気持ちを伝えることが苦手で、言葉の壁に阻まれると緊張のあまりコミュニケーションションがとれなくなってしまうがちです。そんな時に、笑顔で接することの大切さを痛感しました。

今回、取材させていただいた皆さんの、日本への愛情を感じ、その思いに伝えられる日本人でありたいと思えました。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。(木下照子)



ネパール語で「ネパール料理はすごくおいしいです。一度食べに来てください」

・国際理解を深める第1歩《インドネシアの巻》

年 組 番 名前

もうすぐ、我がクラスにインドネシアのジョニーさんが訪ねてきます。さて、そのお客様を迎えるにあたり、何も知らなくて交流は深まるのかな？ちょっと考えてみましょう。
◇彼の国や文化について理解したいと思います。まず、知らないことをあげてみてください。

例えば… 言葉は何語？		
-------------	--	--

◇その中で、自分で調べられるもの、聞いてみないとわからないものに分けると…？
=自分で調べられること=

--	--	--

=聞かないとわからないこと=

--	--	--

◇聞いてばかりも何なので…

あなたの学校、学級の良さを簡単に説明してみてください。

=長尾中学校のいいところ=

--

=あなたのクラスのいいところ=

--

◇日本の良さについて説明したいと思います。あなたならどんな日本の良さを紹介しますか。

◇あなたが日本の国、文化等について教えてあげるとしたら、どんなことが教えられますか。

◇あなたが、諸外国について、不思議だと思うこと、もっと知りたいことを書いてください。

次回は調べられる部分を調べてみます。だから、それぞれ資料（社会の資料集、地図帳など）をもってきてくださいね。

国際理解を深める第2歩 《インドネシアの巻》

前回、インドネシアについて少し考えてみましたが、今回はもうちょっと細かく、そして「このぐらいは知っておこう」という内容をクイズ形式にまとめてみました。さあ、みなさん。お手元の資料集、地図帳、色鉛筆そしてあなたの頭脳を駆使して学習しよう。

【東南アジアの地図添付】

《問1》 上の地図の中で「インドネシア」はどこなの？色を塗ってみてください。（ちなみに日本はわかるよね。）

《問2》 インドネシアの国旗はどれなの？（正しい色に着色してみて）

《問3》 首都はどこなの？（ ジャカルタ ） 地図上に印を付けておこう！

《問4》 インドネシアの人口は日本より多いの？少ないの？＝2001年＝（ 多
い ）

ちなみに何人 （約 2億1000万 ）人

《問5》 インドネシアの人口は世界で何位なのでしょう？ （ 4位 ）

《問6》 インドネシアの標準語は何語なの？（インドネシア語）

《問7》 インドネシアの島の名前を3つ答えよ。（ バリ島 ）（ ジャワ島 ）（ ス
マトラ島 ）など

《問8》 日本がインドネシアから一番多く輸入している物は何なの？（ 液化天然ガ
ス ）

《問9》 東京が12月2日15時のときインドネシアの首都の時間は何月何日の何時で
すか。

（ 12 月 2 日 13 時ごろ ）ということは時差は
（ 2 ）時間

《問10》 インドネシアの首都の名前が由来になった野菜は何でしょう。（ジャガイモ）

体 近づく ・ 心 近づく
一粒の砂に世界を見る 「新しい人」づくり

プロジェクト2005 「 幸せの連鎖 (リンク) タイの風 」

姫路市立山陽中学校 植村 妙江

【 1, 実践教科 】 英語科・道徳・総合的な学習の時間

【 2, 期 間 】 2005年9月～2006年1月

【 3, 対象者 】 ・中学校1年生～3年生 968名

・全校生の保護者および校区一般市民

・中播磨地区小・中学校人権教育担当ならびに支援教員

【 4, 実践背景 】

"International"を「国と国」と捉えて始まる100年前の「新しい時代＝開国」は、21世紀のボーダレスの時代を迎え、「人と人のつながり」へと進化してきた。

そこで、身近な事実から遠く世界を見据え、所属にとらわれることなく人に寄り添って生きる力を求められる「21世紀の新しい人づくりを目指す教育」＝「多文化共生教育」の必要性が高まってきた。こうした視点から、担当者として配置された2003年からの3ヵ年計画で、人権の視点を核とした英語科・道徳学習・学校行事を企画し実践を進め、現在に至っている。

さらに、2004年9月タイ王国より生徒が編入学し、兵庫県よりタイ語の「子ども多文化共生サポーター」の派遣を受けている本校では、すでにベトナムなど他のアジアの出身生徒も在籍していることや、1999年以来タイ王国の2中学校と姉妹校提携を結んでいる事実もあることから、今回の海外研修を受け、最終段階における実践内容に新たな展開を迎えることとなった。

【 5, 実践のテーマ 】

- (1) 異文化の特徴や素晴らしさに気づき、享受・共有する喜びや必要を知る力を育てる。
- (2) 自分自身の命の尊厳を見つめ、身近な外国籍の友だちをはじめすべての人の故郷が、平和で安全であるように希求し、ともに豊かに生きようとする力を育てる。
- (3) 「子ども多文化共生サポーター」の派遣校であるという認識を、学校職員は

もとより校区一般市民にも知らせ、学校教育の範疇を越え、広く地域社会に対し「多文化共生教育」の必要性を提案する。

- (4) 縁あって、大きく環境の違う中で生きる外国籍生徒とその家族が、本校に在籍していることに対して安心と誇りが持てるような教育環境をつくる。
- (5) タイでの研修で得た貴重な資料や体験をもとに、人権教育担当をはじめ支援教員対象の研修会で報告することで、教師の資質に関わる研鑽をともに積む。

【 6, 実践の構成 】

- (1) 第3学年対象 (322名)・・・「道徳ならびに総合的な学習の時間ー全5時間」
 - ①主題 ～新しい時代の生き方を考えよう～
「アイ ラブ ユー；アフガニスタンの少女と聾啞の義肢装具士のふれあい」
(映画鑑賞)
 - ②主題 ～日本の社会を見直そう～
「書きたい 伝えたい；外国人と識字活動」 (ビデオ学習)
 - ③主題 ～生命の尊厳について考えよう～
 - ・第1時 「外国人になって暮らす」 (ロールプレイ)
 - ・第2時 「波路のはてからー難民になって故郷脱出」
(道徳副読本 友だち、ワークブック「なんみん」、ビデオ「アンの甲子園」)
 - ・第3時 「ベトナム難民として生きて」
(多文化共生サポーターによる講演)
 - ・第4時 「タイ王国訪問記と多文化共生教育アンケート」
(ビデオならびにJICA教師海外研修報告会・PHD協会創立者岩村昇氏関連新聞記事による学習)

I 難民についての学習を通して

- @ベトナムの人にこんな歴史があるとは知らないまま大人になるところだった。知って良かった。
- @戦争からの逃亡、とても悲しい始まりですが、たくましさもあり感動しました。
- @苦勞が分かり、胸が苦しくなりました。日本で幸せになって欲しい。
- @ワークブックは、漫画になっていて私の周りの人も熱心に読んでいた。とてもわかりやすかった。もっと知りたいと思った。
- @勉強するまで、ベトナムの人がいっぱい姫路にはいるけど理由を知らなかった。こんなに苦勞していたのかと、知れて良かった。
- @私たちは何不自由なく生きている。みな、平和に生きたいと思った。
- @世界が少しずつわかってきました。この機会で人と人のつながりが大切なことを知りました。
- @国籍が違うことで差別が起きるのはおかしい。私が大きくなったらそういう差別をなくしたい。
- @ワークブックの主人公は、日本に来たことで友だちもでき、幸せになって嬉しかった。
- @海を越えて、はるばる日本に命を運ばれてきた人たちと仲良くしていきたい。

- (2) 第3学年対象・・・「英語科ー全4時間」

③主題 ～世界の「今」を見つめよう～

- ・第1時～第3時 〈NEW CROWN 3〉 Lesson 7 A Vulture and A Child
紛争と飢餓にあえぐスーダン共和国の現状を世界に知らしめた一枚の写真の存在とその力、また撮影した写真家の行動の意味と想いについて考える。
〈写真「ハダワシと少女」 ケヴィン・カーター〉
- ・第4時 「一粒の砂に世界を見る新しい人へ・・・フォトメッセージ」
世界の難民キャンプに生きる子どもたちの写真を最近のJポップスをBGMにして鑑賞することで、写真と歌(詞)のメッセージの力を知るとともに、自分たちの日常の暮らしや学びが難民の現状と繋がっていることを確認する。
〈写真「みんなおなじ地球の子；祖国は難民キャンプ(ポプラ社)」
CD「Triangle トライアングル(SMAP)」〉
〈エルメスのスカーフ「ヌバ・マウンテン」、ヤコブの物語
(新しい開発教育の進め方Ⅱ 難民(古今書院))

Ⅱ授業後の感想

- @テレビで見るのと訳が違う。そこにはたぶん人の感情があると思う。先生が写真をめくっていく。とても速いペースで。でも私には一枚ずつ、大きなモノに見えた。この曲の歌詞の意味が、この授業を受けていない人より深く伝わった。学んでよかった。
 - @先生の話、写真、SMAPの歌詞、なにげなく学校に来ているあたしはやけど、その反面学校に来るどころか、生きていけるかどうかもわからん子どもたちがおるっていうコトもわかって、私は興味を持ちました。これからは、自分で調べていきたい。
 - @涙が出そうになった。厳しさとその反対の笑顔にびっくりした。思いが伝わるように目を光らせてレンズを見ている顔もたくさんあった。何か込み上げるものがあった。この子たちのために何かしたい・・・。それだけだった。私は積極的になりたい。
 - @スマトラ沖の募金に協力しなかったことを後悔した。人の役に立ちたい。
 - @感じるだけでは、世界は変わらないと思う。一日一日を大切にしたい。
 - @前は、私一人がそんなことをしても何も変わらないと思っていたけど、こういう考えの人が多い世の中だから何も変わらないのだ、とわかった。私のように、この授業でこのことに気づいた人たちが、何かするだけで少しは良い方へ変ると思う。
 - @いろんなことを想像しながら曲を聴いた。僕と同じ気持ちの人がこの教室にいる。ここから、家族や友だちへと伝えていけばいいと思いました。
 - @苦しんでいる人を助けるのも大切ですが、完全に救うのではなく、半分は自分の力で立つことも大切だと思いました。
 - @写真集とこの歌をあわせて見聞きすると、先生の思いや伝えたいことがピッタリと重なっていると思いました。受験も大切だけどもっと世界の事も見れる大人になりたいです。先生こんな授業を、してくれてありがとう。
 - @俺たちは幸せだ。先生、俺、勉強頑張るゾ！
- (3) 全校生ならびに保護者、地域一般市民・・・学校公開週間「タイ ウィーク」
・2005年11月7日(月)～11日(金)「多文化共生ストリート」

④主題 ～アジアの仲間を知ろう～

JICA教師海外研修で持ち帰った資料や体験をもとに、ODAなどでも関わりの深いアジアの仲間としてのタイ王国を知る機会を全校生徒とその保護者・職員・地域一般市民に提供する。タイの自然や生活学校風景や文化を紹介することで、タイから転入した生徒を支えるための理解を得ることを試みる。また、1999年より始まったタイ王国の2中学校との国際交流のあゆみについて振り返り、今後の活動の展望を探る。さらに、2004年の12月に発生したスマトラ沖地震による大津波ならびにパキスタン北部大地震の被災地の様子を知り、生徒会活動の一環として募金活動など支援の方法について考える。

展示のセクションを、次のように分類した。

§1:「友だちの故郷(くに)を知ろう」

§2:「タイ姉妹校交流のあゆみ」

§3:「みんなアジアの仲間たち(スマトラ沖地震・パキスタン地震の募金)」

§4:「あなたの名前をタイ語で書くと?」

玄関ホールでの展示、食文化(お茶とデザート)体験、ビデオ視聴コーナー
タイ国籍生徒・保護者によるタイ文字体験コーナー、新聞記事(協力:神戸新聞)による災害学習コーナー、生徒会による募金箱の設置など



多文化共生ストリート
(学校玄関ロビーに展示)



アジア、タイの地図



タイの姉妹校「タブラヤ校、
サブマンウィッタヤ校」の交流紹介



タイのお菓子
「ドリアン羊羹、タビオカゼリー」



展示を見る生徒たち

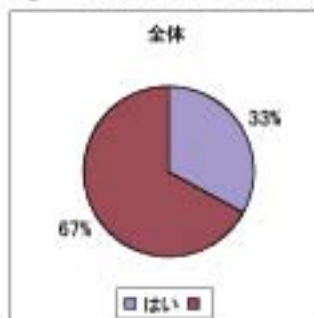


タビオカゼリー試食中の生徒たち

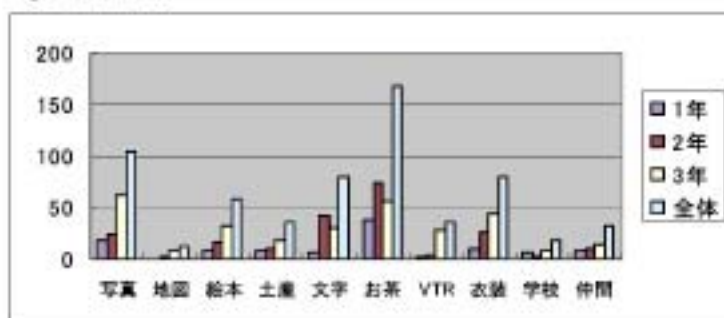
Ⅲ 「多文化共生ストリート」に関するアンケートによる実態 (868人/968人)

【1】「タイウィーク」についての質問

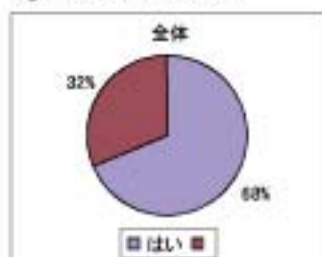
Q1 「多文化共生月に立ち寄りましたか」



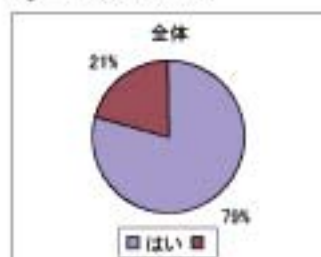
Q2 「よかった内容」



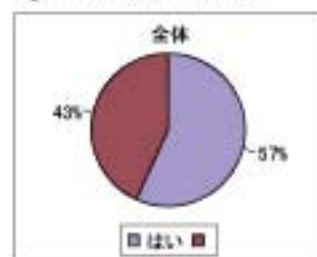
Q3 「タイ文化を知っているか」



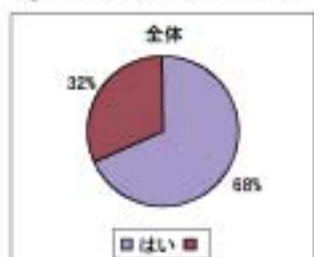
Q4 「今後も交流したいか」



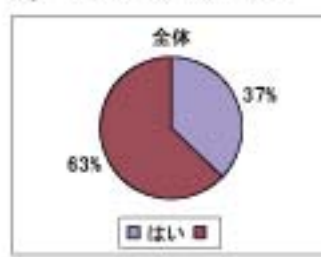
Q5 「タイの仲間を知っているか」



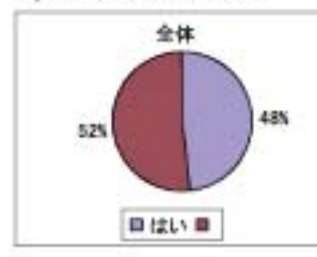
Q6 「外国籍生徒の存在を知っているか」



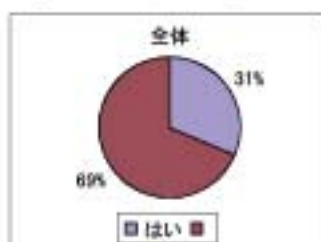
Q7 「サブナーの茶屋を知っているか」



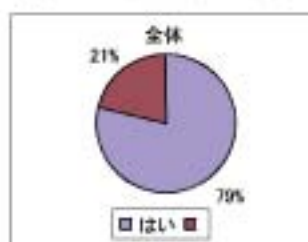
Q8 「日本語教室を知っているか」



Q9 「先生から案内されたか」



Q10 「この取り組みを続けたいか」



A 2	<p>タイに関して新しく分かったことは？ 食べているもの（多数） タイ語の文字の形、民族衣装（多数） 像がたくさんいる スマトラ沖地震の被害の状況</p>	日本との違い・同じところ
A 3	<p>もっと知りたいことは？ 文化 タイの人々の生活 タイの学校の様子 日本との関係 他の食べ物 遊び タイ語 タイの歌や昔話、歴史</p>	<p>スマトラ沖地震について タイと本校の交流について 絵本について タイの環境問題</p>
A 4	<p>多文化共生ストリークの感想は？ もっと文化を知りたかった お茶がおいしかった 自分が持っているタイのイメージと違った タピオカがおいしかった タイに一度行ってみたい 他の国の文字も知りたい こういう交流をもっと増やして欲しい ドリアンはまずかった</p>	<p>感謝 近くなった</p>
【2】	多文化共生についての質問	
Q 1	<p>タイの学校との交流内容は？ 生活文化について教えあいたい タイ語と日本語で話したい 生徒も先生も楽しくお互いを知ることができる交流 互いに訪問したい</p>	<p>友だちになりたい ビデオレター</p>
Q 2	<p>交流を続けたい理由は？ 外国のことを知り、視野を広げたい お互いのことを知ることはよいことだから 楽しいから 国際交流、国際協調、国際貢献、国際平和などを旨したい</p>	

Q 3 アジアの国でもっと紹介して欲しい国は？

韓国（圧倒的多数）	ロシア
中国（圧倒的多数）	シンガポール
ベトナム	ラオス
モンゴル	ネパール
北朝鮮	マレーシア
フィリピン	インド
	台湾

IV タイ研修のビデオを見た感想を教えてください。

- @同じアジアなのにずいぶん環境が違うと思いました。
- @とてもリフレッシュできそうでした。もっと貧しい国だと思っていたけど大人も子どもも元気そうだった。行ってみたい。
- @子どもがバイクに乗ると聞いて驚いた。
- @本当に世界ウルルンみたいな村での三泊四日の体験は、すごく貴重な体験を先生はしたなと思います。一度そういうところで一週間ぐらい暮らしてみても、その地域の人とふれあいたいと思いました。
- @タイの人は優しいようで、日本語をしゃべっていて驚いた。料理もおいしそうで先生たちは楽しそうだった。
- @もっとタイの文化を知りたいし、知って欲しい。
- @タイの家は広くて自然がいっぱいでした。それに笑顔で迎えてくれて本当にいい国だと思った。
- @日本と違って、市場ではお客さんとよりコミュニケーションが取りやすくなっていた。時間がゆっくり流れているようだった。
- @生活は少し不便でも、困っているようには見えなかった。
- @先生がタイに行ったことで、今まで知らない国のことが詳しくわかりやすく勉強できたと思います。これからも多文化共生を続けて欲しいです
- @タイ以外の国も教えて欲しい。1年の時からこういうビデオで教えて欲しかった。

(4) 中播磨地区 小・中学校人権教育担当および支援教員対象・・・50分講義

・2005年11月8日（火） 於 香寺町健康福祉センター

⑤主題 ～人権教育担当ならびに支援教員として、目の前の子どもたちにどう関わるか～

タイ王国での訪問日程やルートの紹介、現地での交流授業などの報告の他、JICAプロジェクトによる派遣を受け活躍する5人の日本人の取り組みから感じ取った視点をまとめ、報告とする。中でも青年海外協力隊員として障害を持つ子供たちとその家族に寄り添い、タイの国民性や習慣の中にあって様々な工夫を重ねて実績を上げている作業療法士の姿勢から学んだことが印象的であった。「人が幸せになるということ」について分析しキーワードにして伝えた。

家の中で縄に繋がれて生活していた少年が、隊員の努力と熱意によって徐々に周囲の人間と繋がりながら縄を解かれていく。やがて人として幸せを感じた瞬間に見せた笑顔。同時に、その瞳の輝きの中に自身の幸せを見つけたと語る隊員の体験から生まれた言葉は、教師として子どもたちの前に立つ時、どれをとっても必要な姿勢づくりのヒントになったと信じている。そしてそれらは、紛れもなく新しい時代と向き合う課題多き我々への生きるヒントでもある。

- * ともにつき合うことで知り、工夫する
- * その子（実態）に合わせる
- * （知り得たことを）広める
- * （指導者自身が）楽しくやる
- * 子どもの手を使わせる（相手を動かす工夫で達成感を持たせる）
- * WHY?に応える（その背景や理由を考える）
- * 近くの人に繋がる人（方法）にする
- * 人にやり方を真似てもダメ
- * 自分がわかると、他人に理解がもてる

★ へこまないで ★ 頑張りすぎないで ★ 終わりはないよ



講演の様子

【 7, 成果と課題 】

・学校全体として

- ① 社会の現状に反して「多文化共生教育」そのものの必要性が十分理解されていない実態が浮き彫りになったことは否めない。その背景には、大規模校であるために少数の外国籍生徒の存在が職員ですら意識されにくいということが挙げられる。「子ども多文化共生生サポーター」の派遣校であるという認識を全職員で持つことが緊急課題と思われる。

- ② タイ王国の姉妹校交流のあゆみについての紹介や計画がこの3年間途絶えていることで、アンケートの結果からもあらためて生徒が国際交流や異文化交流へ大きな期待や誇りを持っていることも分かった。これに応え、今後の計画や展望が早急に必要とされることも判明した。
- ③ 上記の実態は成果としても同時に認められ、教師側からの一方的に与えられる国際理解教育や開発教育というものでなく、双方向性の教育活動を始める提案となった。来年度以降、できれば”アジアシリーズ”として企画・展開したい。

・対象生徒および保護者として

- ① 現在担当している3年生322名の生徒は、入学後3カ年計画で実施した取り組みを通して、少しずつ自分たちの生活と多文化共生社会が深く繋がっていることを理解し始めている。その最終段階において身近な教師がタイに派遣され研修したことを報告することになり、明らかに親しみもてる外国として一足飛びにタイの認識を変えたことが大きな驚きである。国名しか知らず場所すら意識しなかった国に対し、将来足を運びたい思いに駆られ、また自分たちの先生をもてなした現地の人々に好意を寄せる。この心動く連鎖（リンク）こそ、この教育の大きな原動力となると思いたい。
- ② 在籍のタイ国籍の生徒は「多文化共生ストリート」の主演として活躍し、堂々と自分の背景となる文化を友だちに紹介した。開催後タイ式の挨拶で声をかけてくるようになった。その保護者を含み、期間中のPTAの協力や広報誌などによる広がりもごく自然で、我が校の新しい学校文化として受け入れられた様に感じる。
- ③ 「タイウィーク」で生徒会とタイアップしたスマトラ沖およびパキスタン北部大地震の義援金の寄付活動は、その支援体制が不十分だったためか思うような成果が得られなかった。そこで、後の英語科の授業をきっかけに、卒業までのわずかの時間でアジアの仲間を支援する使用済み切手回収に取り組むことにした。2月の学年委員長会の目標を「強い意志で精一杯頑張ろう（願生ろう）」と掲げ、各学級の回収箱を設置したばかりである。

・研修者自身として

- ① 約15年ばかり前、初めてベトナム難民の生徒が目の前に立った。校区にインドシナ難民定住センターがあった。手探りで向き合うしかなかった。やがて日本生まれのベトナムの子どもたちが増え、教え子の中には高校野球で全国からの応援に支えられた子もいた。日本社会に一石を投じる。呼び寄せのカタカナの名の子どもたちが、いつの間にか学校にいて当たり前時代になった。そんな折りのアジアでの研修は新鮮で、何人もの子どもの顔を思い出しながらの学びの機会となった。
- ② タイの数日間は、社会の上層部から低層部に暮らす人々とともにあった。貧しさの中にも命の鼓動が聞こえるようなスラム街の路地を通り抜ける時、幼い日の自分がひょっこり飛び出してきたような不思議な懐かしさを覚えた。かつての日本のしたたかさと大人たちのエネルギー、そしてみんなが夢見た「幸せの形」を思い起こさせた。
- ③ 「新しい時代」に生きる15歳は、失敗したり、やり直したり、「当たって砕けること」を避けて通ろうとする。その壁を少し打ち破るために、今回の研修が活かされたのではないかと自負している。

【軸足はしたたかな日本人に、もう片方はしなやかなアジアの人に＝脱欧米再入亜】

今回の研修および報告の機会を与え、支えてくださったすべての存在に心の底から、感謝申し上げます。

2006年1月31日

姫路市立山陽中学校PTA新聞

平成17年12月16日発行

多文化共生ストリート



▲石見市長来校



今年も昨年に引き続き、オープンスクールが実施されました。保護者や地域の方々に、生徒達の普段の学校生活をj見て頂くことが目的の一つです。



急に冷え込んだ時期でしたが、学芸発表会や夏休み作品展などの行事もあり、たくさんの方が来校されていました。また、石見利勝姫路市長も来校され、熱心に作品をご覧になつていました。

このオープンスクール中、夕方の交流をテーマに異文化体験コーナーも設けられ、神戸新聞の記事にも紹介されました。

オープンスクール実施

十一月七日(月)～十一日(金)

さんよろ

姫路市立
山陽中学校
PTA 広報部
第73号



今日からあなたと、幸せの連鎖